

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503908		
法人名	じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花 上野幌館 2階		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条4丁目2-1		
自己評価作成日	令和2年9月11日	評価結果市町村受理日	令和2年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族と協働による看取りケアと医療連携</li> <li>・ご家族と協働による館行事(敬老BBQ、夏祭り)</li> <li>・入居者様と職員協働の月行事(調理レク、ホームパーティー)</li> <li>・入居者様個々の生活ペース重視の環境作りと個別対応</li> <li>・地域住民参加型の避難訓練</li> <li>・地域交流(幼稚園訪問、町内会主催夏祭り参加、広報誌発刊と町内回覧)</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigojoho-hokkaido.jp/">http://www.kaigojoho-hokkaido.jp/</a>
-------------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ケア理念、行動理念があり、館内に掲示している。特にケア理念は毎月のユニット会議で関連した目標を立て意識付けを行っている。また「らしさ」については、ケア研修を行う中で、考えて気づく様になっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会、夏祭りに参加している。その他、町内へ菜の花通信を発行、冬は除雪協力などを通じて町内と交流している。近隣幼稚園とは園児の来館により、一緒に遊戯などを行うなど交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、ケアの方法や対応方法などを説明している。また、夏祭りやバーベキュー大会等で直接地域の方にケアの様子を見てもらっている。認知症110番登録や菜の花通信の発行で支援の様子を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活の様子や活動は、スライドショーを活用して報告している。その他、サービスアンケートの結果や評価改善への取り組みも運営推進会議で報告し、意見を聴取行ってサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市管理者連絡会、厚別区管理者連絡会を通じて、市の担当者と意見交換し、また、地域包括センターは、ほぼ毎回運営推進会議に参加し、実情やケア内容を報告するなど協力関係の構築に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、その適正化委員会を基本に本社会議、ユニット会議、運営推進会議内で、マニュアルに沿って具体的な拘束行為などをあげて確認と理解に努めている。そうした行為に関連することが日常業務中に無いかなど、疑問や不安に感じたことは、都度話し合ったり、本社教育課に相談を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の身体拘束同様、マニュアルに沿って定例ユニット会議にて具体的事例をあげて内容の理解に努めている。会議を通じ、疑問や不安に感じたことは、その都度職員全体で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、札幌市主催で行われた権利擁護研修に参加し、その内容を定例ユニット会議を通じて職員に伝達研修をしている。現在、これらを活用する対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定時は本社営業担当と管理者が同席し、入居者様やご家族に説明を行っている。その際は、話しやすく、疑問点を理解しやすい様に配慮し、終始、堅苦しくならない様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には、日常の関わりの中で、その都度意見や要望等を伺うよう努めている。ご家族には、面会や電話連絡時、また、プラン作成時や介護支援経過表の提示の際に意見を伺って運営に反映できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、定期的な職員面談や、職員との現場業務の中で職員から意見や提案を聞く様に努めている。代表者は、管理者面談などにより、現況把握に努めている他、会議などの機会を通じて、管理者と意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の意見を聞き、労働状況等を把握し、キャリアアップなど職務改革のビジョンを示している。また、人手不足を含めた労働環境の整備に取り組み始めている。(準職員の正職員化など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、介護資格がない職員に対し、初任者研修取得の助成や実践者研修等を積極的に奨励し、受講できる体制づくりを行っている。また、内部研修として、新人研修や感染研修などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	代表者は、管理者や職員が札幌市や区が開催する研修会・勉強会に参加する機会を通じて、他事業所や他施設の管理者や職員との意見交換や交流できる様にしている。また、そこで得たものをサービスの質の向上に繋げる様にしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、事前に、ご本人やご家族と複数回面接を重ねて、話しやすい環境や雰囲気の中で、安心して入居できる様に信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階で、暮らしやサービスに対する御家族の疑問や要望、不安などをできる限り聞き取り、御家族へ丁寧にサービスプランを説明していく中で、良好な信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の段階で、ご家族の意見や要望、以前利用していたサービスなどを聞き取り、必要としている支援を見極めて、必要があれば、さらに提案をさせて頂き、サービスを提供できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日常生活の中で入居者様ができることを見極めている。入居者様による洗濯物の手伝いや食器拭きなどの家事参加、行事の飾り物を作る創作活動などを通じ、役割を持ちながら共に過ごすことを職員は日々意識している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、夏祭りでのゲームへ参加、敬老バーベキュー大会のテント設営、また、バーベキューの準備・調理・食事介助等の協力をして頂いている。また、クリスマス会では、ファミリーコンサートとして職員と一緒に参加し、ご本人をともに支援していく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族、遠方の親戚が面会に来ている他、電話連絡もある。慶事の贈答品や手紙が直接送られてきた時は、御礼の電話を掛ける支援をしたり、ご家族に報告を入れるなどして、馴染みの関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で話をしたり、その雰囲気を楽しめる様に食事席の位置を工夫している。体操や創作活動、行事などでは、職員が入居者様の隣に座り、話の取次ぎや補足ができる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族が、清掃サービス業の仕事をしており、その関係でレンタルの利用を開始し、現在も継続している。その際に近況を伺っている。別のご家族は、退去後も機会を見て、ファミリーコンサートを聴きに来て下さるなど交流は続いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で会話ができる方、できない方も、ご本人が発する言葉や行動、様子を職員の複数の目で観察し、ご家族からの情報なども基に、ご本人の希望や意向をくみ取る様に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活歴の基本シートへ記入をして頂き、基本的な生活歴の把握をしている。また、ご家族の面会時等の際、ホームでのエピソードなどを紹介し、そこから更に生活歴や人となりを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調・排泄・水分・食事量などのチェック表を参考にしながら、日々の関わりの中で、変化を生活記録に記録している。また、毎日の申し送りやユニット会議でのモニタリングや意見交換などで、各入居者様の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	業務内での気付きや意見、家族面会時やユニット会議での意見やアイデア、主治医や本社看護師の意見等を参考に、それらを反映し、現状に即したケアプランを作成できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や行ったケアの工夫、状態の変化などを介護記録に記入して情報共有をしている。各入居者様の担当職員は毎月ケアプランの評価をし、定例カンファレンスで職員全体の評価・検討を行って、その内容をプラン作成時に参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症高齢者の受け入れや、車いす対応の協力など、各入居者が状態に合わせて楽しめる様に協力して頂ける外出先開拓に努めている。また、外部美容室の個別対応、買い物支援など入居者様の状態に合わせて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や外食先で、認知症高齢者の受け入れや車いす対応の理解や協力を得られるよう同じ場所にとらわれずに新規開拓に努めている。食材買物では、入居者様にスタッフが同行し、近所スーパーに行き、品物や値段を見ながら選べるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時、かかりつけ医について説明をし、2箇所の訪問医から、ご本人ご家族が検討の上、入居契約締結時にかかりつけ医を決定している。かかりつけ医には、ご本人の既往歴や家族情報を提供し、受診の一助としている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、本社看護師に入居者様の様子や変化、健康状態を伝えて、医療的な観点による介護面のアドバイスを受けている。また、専門外来受診の必要性の判断や今後のケアについてアドバイスを受けて、協働しながら、入居者様を共に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護添書などで情報提供をし、ご本人の状態に合った入院生活を送れる様に配慮している。入院中は、連携室などと意見交換をし、関係保持に努めている。早期退院に向け、受け入れ態勢などを病院へ説明し、本人が安心して退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重度化した場合や終末期について、書面にて十分に説明し、ご家族の同意を得ている。状態に変化があった場合は、その都度話し合いをしている。その際は、ホーム、主治医、本社看護師、訪問看護ステーション、ご家族と共同して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が緊急時に対応できるよう消防署の救命講習を受けている。避難訓練を行って、ユニット会議などで緊急時マニュアルを使って、行動手順の確認をしている。マニュアルは、常時職員が閲覧できるようにスタッフルームに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、火災・地震・水害について、日中想定、夜間想定、避難訓練を行っている。うち2回は、消防署、地域消防団、町内会の参加があり、協力を得ている。広域避難所までの実際の移動も行って訓練として実施した。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な対応やケアに至らないよう、職員間で、業務の中で互いに注意を払っている。また、日々の業務中の言動を職員の同意を得て録音し、その内容を意見交換をしている。対応チェックシートの取り組みも実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりから、ご本人の「らしさ」を捉えている。ご本人の話を聴き、表情を観察、思いを尊重するなど、希望実現の為に働きかけをする様にしている。一つの方法として「らしさノート」や「らしさシート」を活用している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者の状態や生活リズムなどに合わせて、なるべく個々のペースを守り、生活しやすい様に業務内容を個別に変更し、その人に合わせたケアを行う様にしている(時間差の食事提供や入浴等)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアスタイルや衣服の整え方、衣類の選択、洗面のタイミング、整容など、ご本人の好みや状態に合わせて対応している。好みの化粧品なども一緒に買いに行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食時のメニューは、入居者様の好みに沿った選択ができるよう配慮している。日々の食事時間は、食器拭きや片付けなど職員と一緒にやっている。調理レクの際は、買い物と一緒にし、職員とともに楽しむ様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などをチェック表で管理している。食事は、旬の食材を取り入れて、バランスの取れたメニューとなっている。水分は、ご本人の状態や嗜好に合わせて提供。栄養スクリーニングを実施し、状態を確認の上、カンファレンスで共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせた歯ブラシ、口腔スポンジ、舌ブラシ、口腔ティッシュ、歯間ブラシ、入れ歯洗浄剤などを使用し、毎食後に介助又は確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、ご本人の排泄パターンの把握に努めている。ご本人の特徴に合った方法で、ジェスチャー、声掛けの上、誘導と介助を行っている。トイレの方も、できるだけトイレでの排泄を促し、排泄の習慣化に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬は、主治医の指示の下、ご本人の状態に合わせて調整をしている。食事形態や飲み物の内容、提供タイミングなどを工夫し、便秘改善に繋がった事例もある。できるだけ寝たきりにせず、トイレでの排便を促すことにより、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	気持ち良く入浴できるよう、その日の気分や体調に合わせて、曜日、時間、順番、誘導の声掛けなどを工夫し、職員間で連携を図って対応している。ゆっくりと入りたい方には、組み合わせを工夫し、その様に入浴できるよう時間を取っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の関わり方や生活状況を観察し、日中の休息時間を工夫し、夜間の安眠に繋がられるよう職員間で申し送りをし、連携を図っている。睡眠には居室温度や寝具に配慮し、安眠に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化などに注意し、服薬方法や効果・副作用について主治医や本社看護師に相談や確認をとって対応している。処方内容を含めた受診内容は申し送りや受診記録で職員間で情報共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝いや洗濯物たたみなど自分でできる役割を大切にしている。また、職員と一緒に掲示物の創作活動やパズルや塗り絵など、ともに楽しみながら行っている。外に散歩や外気浴を行うなど、ご本人の嗜好や状態にあった支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見て職員と散歩や外気浴をし、季節を感じられる様に支援している。外出先として普段は行けない動物園を選定したり、季節のお花見や紅葉見物などの外出支援も行っている。個々の状態に合わせたドライブなど個別対応も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒にスーパーなどに行き、ご本人が必要な物を選んで買う、皆さんで食べる、おやつを選んでカゴに入れるなど、ご本人の状態にあった支援を行っている。事前に用意したお金で支払いなども行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があった場合は、かけられる様に取次ぎし、電話が来た時は、ご本人につなぎ、外部とのつながりを持てる様に支援している。手紙が来た場合は、ご本人に届けて、返信まで支援している。年賀状の対応もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、リビングや廊下、浴室やトイレなど共用空間は、動線を考えて危険のない様、備品などを配置している。季節や生活を感じられる様に掲示物などを工夫している。夏期はエアコンを入れたり、風通しに配慮し、冬季は暖房と加湿器の室温湿度を管理し、心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、気の合う者同士が団欒できる様、椅子やテーブルは余裕をもって配置している。関係性が気まづくなった場合は、避難できる様に職員の近くに席を用意している。休みたいた時はソファでくつろげる様にクッションなどを用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時からの馴染みの家具、テレビ、写真、仏壇等に囲まれている。配置は、ご本人の使い勝手や身体状況に配慮の上、ご本人とご家族とも相談しながら行って、動線も確保している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり、車いすでも十分に移動できる広さがある。台所からは、入居者様が見えて、コミュニケーションをとっている。居室前には写真付きの表札、トイレなどには立体的な表示をつけて、迷わないようにしている。		